

筑豊無形文化遺産

# 校歌探訪

飯塚市・嘉麻市・桂川町

## 〈小学校編〉

校歌は言葉の伝言板。そこには故郷の山や川があり、私達の日々の暮らしがきれいな言葉で書き記されている。学校を訪ね校歌を知るとは、故郷を知ることであり、忘れかけていた美しい日本のことばを再発見することでもある。

以下は、私が入学した潤野小学校から卒業した若菜小学校までを順不同で書き記した。

山下 末廣

(筑豊ゼミ市民遺産研究会)

## 目次

1. 対象小学校	2
2 校歌に歌われている山・川・植物などの言葉	3
3 歌詞に校名の無い学校	4
4 歌詞に児童数が書かれている学校	5
5 小学校編作詞者一覧	5
6 小学校編作曲者一覧	5

## 校歌考

(1)	・潤野小学校	・高田小学校	6
(2)	・飯塚小学校	・幸袋小学校	7
(3)	・飯塚東小学校	・立岩小学校	8
(4)	・楽市小学校	・平恒小学校	9
(5)	・碓井小学校	・庄内小学校	10
(6)	・鯉田小学校	・稲築東小学校	11
(7)	・稲築西小学校	・片島小学校	12
(8)	・椋本小学校	・上穂波小学校	13
(9)	・伊岐須小学校	・目尾小学校	14
(10)	・八木山小学校	・蓮台寺小学校	15
(11)	・桂川小学校	・桂川東小学校	16
(12)	・大分小学校	・内野小学校	17
(13)	・颯田小学校	・菰田小学校	18
(14)	・上山田小学校	・下山田小学校	19
(15)	・牛隈小学校	・嘉穂小学校	20
(16)	・熊ヶ畑小学校	・若菜小学校	21

## 1. 対象小学校(32校)

### 飯塚市(22校)

(飯塚地区:12校)・鯉田小学校 ・立岩小学校 ・飯塚東小学校 ・菰田小学校  
・飯塚小学校 ・片島小学校 ・伊岐須小学校 ・幸袋小学校 ・目尾小学校  
・蓮台寺小学校 ・潤野小学校 ・八木山小学校

(穂波地区:5校)・楽市小学校 ・平恒小学校 ・若菜小学校 ・棕本小学校  
・高田小学校

(筑穂地区:3校)・内野小学校 ・上穂波小学校 ・大分小学校

(庄内地区:1校)・庄内小学校 (昭和45年4月、赤坂・仁保の両小学校が統合して発足)

(穎田地区:1校)・穎田小学校 (明治8年勢田小学校落成。明治22年勢田・鹿毛馬・口原・  
佐与村が合併し、穎田村となり、「穎田小学校」と改称。平成25年、小中一貫校穎田校開校)

### 嘉麻市(8校)

(山田地区:3校)・熊ヶ畑小学校 ・下山田小学校 ・上山田小学校

(稲築地区:2校)・稲築西小学校 ・稲築東小学校

(嘉穂地区:2校)・牛隈小学校 嘉穂小学校(大隈、宮野、足白、千手、泉河内の  
5小学校が統合して、平成26年に開校した)

(碓井地区:1校)・碓井小学校

### 桂川町(2校)

・桂川小学校 ・桂川東小学校

## 2 校歌に歌われている山・川・植物などの言葉(32校中)

(1) 山 27校 27/32 (84%)

- ① 竜王山 12校 (40%) (潤野・高田・飯塚・飯塚東・立岩・楽市・平恒・  
鯉田・片島・椋本 蓮台寺・若菜)
- ② 三郡山 4校 (上穂波・目尾・桂川・大分)
- ③ 馬見山 3校 (下山田・牛隈・嘉穂)
- ④ 笠置山 2校 (幸袋・伊岐須)
- ④ 英彦山 2校 (菰田・下山田)
- ④ 古処山 2校 (下山田 嘉穂)

その他、関の山・大根地・大将陣・大法山・琴平山 屏山など

(2) 川 18校 18/32 (56%)

- ① 遠賀川 5校 (16%) (鯉田・片島・伊岐須・鯉田・蓮台寺)
- ① 穂波川 5校 (16%) (高田・飯塚・平恒・椋本・内野)
- ① 嘉麻川 5校 (16%) (飯塚東・碓井・稲築西 牛隈 嘉穂)

その他、内住川・庄内川・白川など

(3)山と川 17校 17/32 (53%)

(高田・飯塚・幸袋・飯塚東・平恒・碓井・庄内・鯉田・片島・椋本・上穂波・目尾・菰田・  
大分・内野 牛隈 嘉穂)

(4)山と川(固有名詞)がない学校 4校。

〈稲築東小〉・・・嘉穂の山 ゆく川よ 〈鯉田小〉・・・豊かな山河  
〈八木山小〉・・・緑の山 川光る 〈熊ヶ畑小〉・・・緑の山 清い流れに

\* 桂川東小学校の校歌には山も川も歌われていない。 ♪ 流れゆくかき桂川の・・・？

(5)植物

桜 (飯塚東)(桂川東) ・月桂樹 (桂川東) ・たちばな (上穂波) ・ポプラ (平恒)  
銀杏 (鯉田) ・楠 (飯塚) ・葦 (伊岐須) ・稲 (稲築西)(楽市)

(6) 歌詞に多く使われている言葉

- ① 希望 ・強い(く) ・ 清い(く) (17 校) 53%
- ② われら・学び舎 (13 校) 41%
- ③ 歴史 (12 校) 38%
- ④ 正しく(しい) (11 校) 34%
- ⑤ 仰ぐ (10 校) 31%
- ⑥ 伸びる・明るい(るく)・励むが (9 校) 28%
- ⑦ 誇り・力・弛まず・元気が (8 校) 25%
- ⑧ 夢・豊・望みが (7 校) 22%
- ⑨ 理想 (5 校) 16%

\*(希望)と同義語の(望み)7校を加えると、希望(望み)は(24校)になり、全体の 75%(22/32)となる。

\*非日常的な言葉としては たゆまず 9校 ・いそしむ 4校 ・久遠 4校 ・  
はらから 2校 ・ゆかしき 2校

(7) 歌詞に書かれている色

緑・・緑も深き(潤野) 緑の山(立岩) 緑の風(庄内 牛隈) 緑したたる(上穂波)  
めぐる緑(熊ヶ畑) 緑遥かな(上山田) 学ぶ緑の(桂川) 風さそう緑(八木山)  
他に、白雲なびく・嶺の白雲・ 青雲めぐる・夏の青田・ 紫こゆき・ むらさきにおう

(8) 歌詞に書かれている春夏秋冬

春 → 春光(若菜) / 春爛慢(碓井)  
夏 → 夏の青田(楽市)  
秋 → 秋穂(楽市) / 秋凜烈(碓井)  
冬 → 冬炭山(楽市)

3 歌詞に校名のない学校 (3校) 3/30 10%

・椋本小学校・伊岐須小学校・目尾小学校

#### 4 歌詞に児童数が書かれている学校 (5校) (括弧内は、校歌→2015年の児童数)

- ・碓井小学校(千百余→251)・棕本小学校(五百→305)・伊岐須小学校(二千→728)
- ・穎田小学校(千余→263)・蓮台寺小学校(三百→244)

#### 5 小学校編作詞者一覧

- ・栗原 一登 (飯塚小・飯塚東小・立岩小・菰田小・幸袋小・鯉田小・稲築東)
- ・谷口 廣保 (碓井小・稲築東小・庄内小)
- ・青柳 千春 (大分小・若菜小)
- ・林 黒土 (楽市小・平恒小)
- ・久保 義久 (潤野小・八木山)
- ・松岡 俊幸 (上山田) ・ 高橋 芳雄 (下山田)
- 西村真由美 (桂川東) 宮永 操 (穎田小) ・
- 大塚 進 (熊ヶ畑) 大屋九十九 (伊岐須)
- 古賀 藤久 (片島小) ・ 島田 嘉文 (目尾小) ・
- 岸 勝良 (桂川小) 持田 勝穂 (蓮台寺)
- 藤井 茂 (牛隈小) 椎窓 猛 (嘉穂小)

#### 6 小学校編作曲者一覧

- ・森脇 憲三・ (楽市小・目尾小・大分小・蓮台寺・穎田小)
- ・安永武一郎 (平恒小・庄内小・稲築東・上山田)
- ・清水 進 (潤野小・八木山・片島小・桂川東)
- ・江口 保之 (鯉田小) ・ 池田 勝重 (熊ヶ畑)
- ・石丸 寛 (飯塚小) 安部 辰雄 (桂川小)
- ・吉竹 栄 (高田小) 坂本 不二夫 (碓井小)
- ・後藤 忠雄 (幸袋小) ・ 宮嶋 尚志 (立岩小) ・
- 湯山 昭 (菰田小) ・ 越尾 隆 (伊岐須)
- ・澤井 信明・秋山 喬 (下山田) ・ 末次 寛八 (稲築西) ・
- 早粕 與 (若菜小) ・ 大中 寅二 (飯塚東)
- 田籠 勝義 (牛隈小) 平田 弥枝 (嘉穂小)

## 校歌考 (1)

**潤野小学校** 創設 1874 年(明治 7)

作詞 久保 義久 作曲 清水 進

- 1 遙かに高き竜王を 仰ぎて日ごと学舎に  
まろかな空の澄めるごと 学び勤しむはらからの  
ゆかしき業ぞ讃えあれ
- 2 緑も深き筑紫路に 萌えてしたたる友愛の  
学びの道に手をとりて 励みつくせるはらからの  
永き歩みぞ楽しけれ
- 3 潤野の丘のきざはしは 千歳の川の水清く  
響く文化に鎮西の 和みの道を拓くごと  
学びの歩み栄あれ

**高田小学校** 創設 1957 年(昭和 32)

作詞 高田小学校 作曲 吉竹 栄

- 1 花がいっぱいわが母校 澄んだ心に手足が弾む  
竜王のそのふもと高田小  
おお我ら道を 学びの道を今登る今登る
- 2 光がいっぱいわが母校 強い身体に文化が開く  
穂波川その清き高田小  
おお我ら燃えて 希望に燃えて今進む今進む

潤野小は、昭和 30 年入学した私が四年間通った学校。入学時の校長が清水進先生。つまり校長が校歌の作曲者であった。「文語体と口語体」・「明治と昭和」文体や時代は違っている、両校の詩には故郷の山(竜王山)への想いが綴られている。

※まろか:形が丸いさま。 ※はらから(同胞):同じ母から生れた兄弟姉妹。同じ国民 ※きざはし(階):階段

\* 竜王山:標高616m。所在地は建花寺・蓮台寺・大日寺・明星寺。鎮西八郎為朝の龍退治の伝説がある

\* 穂波川:遠賀川水系の支流。碓川・大分川・馬敷川・山口川・切畑川・大野川・明星寺川・徳前川などの総称

(余談その1)

昭和 34 年頃の潤野小の学芸会は、同じ劇芝居を村の子と炭鉱の子が別々に演じるダブルキャストだった。

## 〈校歌考〉(2)

**飯塚小学校** 創設 1874 年(明治 7)

作詞 栗原 一登 作曲 石丸 寛

1 呼べば答える竜王の 嶺の白雲仰いでここに  
あしたを開く創造の 光もとめて飯塚われら

2 清く流れよ穂波川 風も明るく栄える町に  
仲よく君と勤勞の 喜び歌う飯塚われら

3 かおれ楠の葉わが校に 望み豊かに  
日ごとを生きて  
たゆまぬ努力古里の 大地に誓う飯塚われら

**幸袋小学校** 創設 1874 年(明治 7)

作詞 栗原 一登 作曲 後藤 忠雄

1 幸袋幸袋 明るい学校私の学校  
窓に揚げば笠置の山に 望み燃えよと呼びかける

2 幸袋幸袋 楽しい学校私の学校  
風に輝く遠賀の川が 元気に学べと呼びかける

3 幸袋幸袋 伸び立つ学校私の学校  
町の歴史が大地の声 正しく生きよと呼びかけ  
る

両校ともに 1874 年の創設であり、作詞者も同じである。飯塚小学校は枝国、徳前、菰田、飯塚の 4 町村が校区で発足し、幸袋小は「庄司小学校」、校区を中・柳橋・津島の三地区として設立された。

\* 笠置山: 飯塚市と宮若市の間に位置する標高 425m の山。千石峡側と庄司側からの登山口があり、山頂にあった笠木城は、建武年間(1330 年頃) 占部宗安の居城であった。後に秋月氏の城となり、今でも城址が残っている。

\* 栗原一登 (1911~1994): 福岡県出身の演出家、児童劇作家。女優栗原小巻の父親であり、多くの校歌を作詞している。

飯塚小の他に、飯塚東、菰田、立岩、幸袋、鯉田。稲築東中と嘉穂中の作詞も書いている。

\* 石丸 寛 (1922~1998): 嘉穂町(嘉麻市)出身の作曲者。指揮者。

九州交響楽団を結成し、初代常任指揮者となる。黛敏郎や藤田敏雄らと「題名のない音楽会」を立ち上げ、10 年間指揮者をつとめた。

### (余談その2)

1981 年の某コーヒーのCM「違いの分かる男」は石丸寛。歴代に宮本輝/高倉健//小田和正/大沢たかお等



## 〈校歌考〉(3)

**飯塚東小学校** 創設 1953 年(昭和 28)

作詞 栗原 一登 作曲 大中 寅二

1 山よ龍王英彦の峯よ 山が見ている緑の丘を  
飯塚東その名を誇り日ごとに励もう  
明るくここに 薫れよ花も母校の庭に

2 川よ嘉麻川遠賀の流れ 川が聞いている希望の歌を  
桜に浮かぶしるしを讃え たゆまず学ぼう  
楽しくいつも さえずれ鳥も母校の庭に

3 町よ飯塚歴史の栄え 町が待ってる私を君を  
飯塚東その名を胸に元気に育とう  
仲よく共にかがやけ 風も母校の庭に

**立岩小学校** 創設 1874 年(明治 7)

作詞 栗原一登 作曲 宮嶋 尚志

1 緑の山に囲まれた 明るいこの町飯塚の  
丘の学校立岩は 私のゆりかご花の園  
仲よく通う体も強く 風も輝け机に窓に

2 筑紫の文化埋もれた 遙かな歴史の庭に立つ  
丘の学校立岩は 私の学びや夢の園  
元気に励もう望みに燃えて ベルも高なれ校舎の森に

3 栄える町を受け継いで 働く誇りを胸に秘め  
丘の学校立岩は 私のふるさと愛の園  
豊かに学ぼう明日に備え 歌も広がれ竜王の空に

前回同様に作詞者は栗原一登。飯塚東小の作曲者は、「椰子の実」(1936 年放送の NHK 国民歌謡)の大中寅二(1896~1982)作詞者は島崎藤村。

飯塚東小には、龍王(竜王山)と英彦(英彦山)・嘉麻川と遠賀川と二山、二川が歌われている。

立岩小には(丘の学校立岩)を主調として、花の園・夢の園・愛の園として書かれ、歌の最後は竜王山で締めてある。

※たゆまず(弛まず):たるまず・ゆるまず。 ※筑紫(ちくし・つくし):古代での九州の総称。主に北九州。

\* 嘉麻川:遠賀川の旧称。源流から上流部が旧嘉麻郡だったことに由来。いつ頃から遠賀川になったかは不明。

\* 英彦山:標高1199m。福岡県田川郡添田町と大分県中津市山国町にまたがり、古来より出羽の羽黒山・熊野の大峰山と並び日本三大修験道の霊場の山として有名。

(余談その3)

S36 年発売、小林旭の「惜別の歌」(元歌は中央大学学生歌)の作詞も島崎藤村。私の愛唱歌の一つでもある。

## 〈校歌考〉(4)

**楽市小学校** 創設 1875 年(明治 8)

作詞 林 黒土 作曲 森脇 憲三

1 昇る朝日に照り映える 我が楽市の学び舎に  
誠の道をきわめんと 夏の青田の露払い  
通う我らはここにあり

2 青空高く晴れ渡る 我が楽市の学び舎  
よい子の道を訪ねんと 秋穂の波をかけめぐり  
学ぶ我らはここにあり

3 北風強く吹きすさぶ 我が楽市の学び舎  
みんなの力試さんと 冬炭山の霜を踏み  
集う我らはここにあり

4 夕焼け空に染め抜いた 我が楽市の学び舎に  
美わし希望とどめんと 春竜王のその影を  
集う我らはここにあり

**平恒小学校** 創設 1953 年(昭和 28)

作詞 林 黒土 作曲 安永武一郎

1 流れ尽さないせせらぎの 穂波の川の明け暮れに  
学びの道をくみあいし 友のまじわりいや深く  
その名もゆかし その名もゆかし我が母校

2 大将陣にいだかれて 遥かにのぞむ竜王の  
峰に理想を仰ぎつつ しんこうの意気天をつく  
その名もゆかし その名もゆかし我が母校

3 そよぐ穂波につつまれて みのり豊かな平恒の  
ポプラ並木の緑かげ 芽ぐむ心も美しく  
その名もゆかし その名もゆかし我が母校

楽市小学校は秋松小学校、平恒小学校は南楽市小学校として設立された。両校は穂波東中学校区の小・中一貫校として、平成29年度開校予定。両校の校歌を作詞した林黒土(本名黒土康雄)は、旧穂波町出身の戯曲作家・演出家。

歌詞にあるように、平恒小は大将陣の麓にある。楽市小の校歌には産炭地を連想させる「炭山」の歌詞がみえる。

※炭山(たんざん):石炭のある山・炭鉱のある山。

※しんこう(晨光):夜明けの光。晨は早朝。

※青田の露払い:稲の苗が生育して、青々とした田に残る結露した霜や雨水を払い落す。(先に立って道を開く人)

\*大将陣:標高 112m。桜の名所、天慶4年(941)源満仲が藤原純友の乱の鎮圧のために陣を敷いたことに由来。

(余談その4) 中学の時、同学年に林黒土の娘さんがいて、父親が有名人という噂話があったと記憶している。

## 〈校歌考〉(5)

**碓井小学校** 創設 1947 年(昭和 22)

作詞 谷口 廣保 作曲 坂本不二夫

- 1 みどりの深き琴平の 変わらぬ姿仰ぎつつ  
長き歴史と伝統に  
集う健児や千百余
- 2 春らんまんの花の夕 秋りんれつの霜の朝  
学びの道をたゆみなく  
進む希望の峰高し
- 3 嘉麻の流れの水のごと 真心清く結ばれて  
正しく強く打ちたてん  
自治は我らの光なれ
- 4 ああ健やかな身と心 鍛えし誉れ受け継いで  
文化の理想仰ぎつつ  
伸びなんいざや碓井校

**庄内小学校** 創設 1970 年(昭和 45)

作詞 谷口 廣保 作曲 安永武一郎

- 1 関の山から吹いて来る 緑の風が学び舎の  
希望の窓に友を呼ぶ友を呼ぶ  
ああ健やかな夢を呼ぶ  
望みわれら庄内小学校
- 2 金石台にむつみあう 光りの影が学び舎の  
明るい庭に元気よく元気よく  
ああ仲よしの肩をくむ  
励むよ我ら庄内小学校
- 3 庄内川のひとすじに 歴史の流れ学び舎の  
受け継ぐ命はつらつはつらつと  
ああ遅しく伸びてゆく  
誇りを我ら庄内小学校

碓井小の校歌には琴平と嘉麻川があり、児童数が千百余と最盛期を連想できる歌詞がある。ちなみに、2015 年では 251 人である。

庄内小の地名としては関の山(標高359m)と、峰つづきの金石台(金石山 標高260m)・庄内川が歌われている。

※らんまん(爛漫): 花が咲き乱れているさま。

※りんれつ(凜烈): 寒気の厳しいさま。

※むつみ(睦): 親しくする・仲よくする。

※はつらつ(澆刺): 生き生きとして元気のよいさま。

\* 琴平(琴平山): 標高123m。旧嘉穂町大隈にある山。

\* 庄内川: 遠賀川水系の支流。鹿毛馬川・小峠川・高倉川・入水川・仁保川・多田川などの総称。

\* 谷口廣保(1920～1998)は旧碓井町出身。童謡、民謡なども作詞。碓井小の他に庄内小・稲築東中学の校歌も書いている。

## 〈校歌考〉(6)

**稲築東小学校** 創設 1924 年(大正 13)

作詞 栗原 一登 作曲 安永武一郎

1 嘉穂の山なみわく雲よ  
見よ見よ町を歴史の丘を  
明るく育つ稲築東  
仲よく通う笑顔で今日も  
仲よく通う笑顔で今日も

2 ひかりの庭の噴水よ  
呼べ呼べ虹を希望の朝を  
豊かに伸びる稲築東  
進んで学ぼう楽しくここに  
進んで学ぼう楽しくここに

3 嘉麻よ 山田よ ゆく川よ  
聞け聞け歌を元気な声を  
体も強く稲築東  
助けて共に開こう明日を  
助けて共に開こう明日を

**稲築西小学校** 創設 1976 年(昭和 51)

作詞 谷口 廣保 作曲 末次 寛八

1 山なみ遠く陽に映えて  
希望はるかな雲が飛ぶ  
ああ学び舎は窓光り 仲よしわれら肩をく  
学ぶよともに意気高し  
稲築西は我が母校

2 歴史を誇る嘉麻川に  
郷土の栄えうつしつ  
ああ学び舎は汗光り 鍛えよわれらたくましく  
励むよともにたゆみなく  
稲築西は我が母校

3 稲の穂実る校章に  
育つ命よすこやかに  
ああ学び舎は花かおり 誇りぞわれら伸びてゆく  
進むよともに眉あげて  
稲築西は我が母校

稲築東小学校は岩崎小学校より分離して開校し、稲築西小学校は岩崎小学校と平小学校の一部を統合して開校。東小校歌にある「嘉穂の山なみは」、嘉穂三山(馬見山978m、屏山927m、古処山859m)を連想させる。

西小の校章は健やかに実った稲穂。両校の校歌とも、「山並みに見える雲」から始まっているのも面白い。

※たゆみなく(弛みなく)・・・たるまず・ゆるまず。

\* 末次 寛八・ 北九州交響楽団でバリトンソロを担当。谷口廣保とのコンビで多数の校歌を作っている。

\* 安永武一郎・・・(1922～1998)長崎県出身。九州交響楽団名誉指揮者。福岡市出身のバイオリニスト安永徹(1951～)の父。飯塚新人音楽コンクールの審査員等、稲築東小、上山田小・平恒小・庄内小・筑穂中学校の校歌も作曲している。

## 〈校歌考〉(7)

**鯉田小学校** 創設 1873 年(明治 6)  
作詞 栗原 一登 作曲 江口 保之

1 そびえる銀杏に芽がふいて  
緑に茂って黄色くなった  
いつでも明るいぼらの学校  
みんなの学校 飯塚 鯉田 明るい学校

2 流れる遠賀の川近く  
元気に育って楽しく遊ぶ  
望みも豊かなぼらの学校  
みんなの学校 飯塚 鯉田 豊かな学校

3 はらかな竜王雲青く  
明日を誓ってたゆまず進む  
カもわき立つぼらの学校  
みんなの学校 飯塚 鯉田 わき立つ学校

**片島小学校** 創設 1874 年(明治 7)  
作詞 古賀 藤久 作曲 清水 進

1 しのめ晴るる筑豊の  
四方にとどろく鐘の音に  
祖国の幸を築く朝 久遠の理想を受け継いで  
わが学び舎は日に映える

2 青雲めぐる龍王  
聖き姿を仰ぎつつ  
玉なす汗の勤勞に 栄えゆく文化祈る時  
学びの庭に力あり

3 遠賀の流れとこしえに  
豊けき望みたとう御代  
世界の民と交わりて とわに変わらぬ友愛の  
使命にたてり片島校

鯉田小学校は明治6年創設の伝統校で、昭和40年に校歌を制定。児童劇作家の作詞者らしい童謡風の歌詞となっている。

片島小学校は水江小学校として創立。文語調の重厚、勇壮な歌詞となっている。

※しのめ(東雲)・・・東の空が明るくなる頃・夜明け方・あけぼの。

※鐘の音・・・ここでは単なるつちの音ではなく、前後の歌詞から、炭鉱夫が使う石炭採掘用の(つるはし)が想像できる。

※久遠(くおん)・・・(きゅうおん) とも。仏語、長く久しいこと。遠い過去または未来。

\* 江口保之・・・県立福岡高校の音楽専任講師を経て、20代後半より北原白秋の詩集「邪宗門」に魅せられ、78歳の時に、日本歌曲最大級の大曲(9分39秒)を完成させた。

## 〈校歌考〉(8)

椋本小学校 創設 1874 年(明治 7)  
作詞・作曲 不詳

- 1 剛毅の化身竜王山 カの泉穂波川  
雄大秀美のその姿 清き流れに湯浴みして  
その気を受けて生まれたる  
我が校健児の意気高し
- 2 大将陣は堂々と 東の空にそびえ立ち  
茜さす陽に輝ける 我が学び舎を守るなり  
蛍も雪も友として みかけ  
知徳をひとすじに
- 3 学びの海は深くとも 渡るにやすき腕あり  
教えの山は高くとも 登る足並み踏みしめて  
共に努めよたゆみなく  
ふるえ五百の我が健児

上穂波小学校 創設 1874 年(明治 7)  
作詞・作曲 不詳

- 1 緑したたる三郡山 流れも清き穂波川  
水に枕し山を負い そびえ立てる我が母校
- 2 時これ明治二十三 紫におう雲間より  
質実にして剛健の 理想の光さし出でぬ
- 3 我等千余の健児団 教えの標めざしつつ  
勉め励みてたゆみなく 正しき道をたどるなり
- 4 見よやみ空の星影は 我等の行くて照らすなり  
聞けや林の鳥の音は 我等の行くて祝うなり
- 5 ああ上穂波学校の 誉れも高きたちばなの  
栄えの歴史かざしつつ 永く讃えんもろとも

共に作者不詳の校歌の紹介です。椋本小学校には、二人の子供が通算で8年間通った。校歌は何度も聞いたし私も歌った。詩も曲も素晴らしい校歌なのに、作詞作曲者が不詳なのは残念である。校舎は穂波平野の田園地帯に建ち、殆んど石炭産業斜陽化の影響もなく、平成以降も各学年ニクラスで児童数は三百人を超えている。

「ふるえ五百の我が健児」には、生徒数が最も多かった頃の様子が窺える。

漢詩風で、勇壮な上穂波小校歌にも「千余の健児団」の歌詞、炭鉱景気で賑やかだった往時を語っているのだろう。

\* 三郡山…筑紫郡、粕屋郡、嘉穂郡の三郡に接する三郡山地の最高峰で標高936m。山頂は飯塚市に属する。

(余談その5) 20年前の長男の卒業式。感極まったU先生。「何度聞いても歌っても、やっぱり椋本小の校歌が最高ね！」。

## 〈校歌考〉(9)

伊岐須小学校 創設 1877 年(明治 10)

作詞 大屋九十九 作曲 越尾 隆

1 笠置のふもと高宮の森  
我が学び舎はここに立つ  
二千の健児日々に集い  
のぞみの道たどりゆく

2 恵まれし土地二瀬の里に  
基礎を立てて五十年  
文化のまどり日々にひらけ  
栄えゆくこそ楽しけれ

3 天地に受けし我らの命  
正しく強くやしなわん  
ながき流れ空うつ波  
雄々しき姿学びつつ

4 葦の若芽の萌え出ずる力  
受けし我らの嬉しさよ  
正しき道つとめはげみ  
養い立てんうるわしく

目尾小学校 創設 1876 年(明治 9)

作詞 島田 嘉文 作曲 森脇 憲三

1 明けゆく空に三郡の 揺るがぬ姿映しつつ  
自然の台を友として  
わが学び舎は麗しく  
友愛花と咲きかおる

2 遠賀の流れたゆみなく 真広き心なごやかに  
明るく清く身を修め  
工夫をこらし和を磨き  
学びの道をいそしまん

3 豊かな恵み天地に 感謝の心捧げつつ  
正しく強く健やかに  
働く力を養いて  
楽しく共にふみゆかん

4 理想の翼夢のせて 学びの庭に巣立ちゆく  
希望の胸に誉れあり  
平和の集い嘉穂の里  
栄えゆく園をつちかわん

\* 目尾小学校・明治9年頃、大谷村字目尾小字山の鼻に穂波村一番学区と称し目尾、柳橋、津島を以って区域とす。三ヶ年終了の簡易科でそれ以上は二瀬村川津尋常小学校へ通学。

児童数30・就学率40% 「学校沿革」より

目尾小の校歌には周辺の笠置山や竜王山ではなく、何故か遠くの「三郡山」が登場している。興味があって作詞者の島田嘉文を検索したが、残念ながら該当なしだった。

※ いそしまん(勤しまん)・・・勤しむ・慎み励んで奉仕すること・勤勉であること。

※ 台(うてな)・・・四方を眺めるために建てられた高い建物。高殿。

\* 高宮の森・・・高宮八幡宮。日本で初めて全国八幡宮の総本宮宇佐神宮の分霊を移したとされる由緒ある八幡宮。

## 〈校歌考〉(10)

穎田小学校 創設 1875 年(明治 8)

作詞 宮永 操 作曲 森脇 憲三

1 流れ清らかな白川や  
稔り豊かにつづく里  
外山の緑につつまれて  
高くそびえる穎田校

2 豊かな山河に育まれ  
強く明るき力もて  
ああ先輩の築きたる  
歴史は今も輝かし

3 今ぞ平和の学び舎に  
我ら千余のよい子たち  
旌旗の誇りを身にしめて  
共に進まん今日もまた

菰田小学校 創設 1923 年(大正 12)

作詞 栗原 一登 作曲 湯山 昭

1 花よ香れ緑の丘に  
菰田は歴史の古い里  
遠い祖先の誇りを受けて  
強く生きよう楽しくここに

2 町よにぎわえ遠賀のほとり  
広がる台地が夢を呼ぶ  
ひらく故郷の栄えを讃え  
日毎に学ぼう仲よくここに

3 歌よとどろけえひこに峰に  
明るい望みが胸にわく  
明日の時代の力をめざし  
元気に育とう正しくここに

穎田小学校は勢田小学校として落成。菰田小学校は「飯塚尋常小学校菰田分教所」として認可された。穎田小の校歌1番にある、「白川」の存在を学校や役場に問い合わせても不明だった。遠賀川の支流の別称か、地域周辺で使われていた呼び名とも思われる。3番には「千余のよい子」とあり、炭鉱(明治炭鉱)の隆盛が想像できる。

菰田小校歌には丘や台地がうたわれ、そこからは遙か遠くに英彦山が眺望できるのだ。

※旌旗(せいき)・・・のぼり・はた。

※えひこ(え・英彦)・・・えには美化や誇張の意。現実よりも誇張した表現。

\* 森脇憲三・・・(1916～1996) 福岡市出身。数多くのオペラや合唱曲を作曲。校歌紹介では、楽市・目尾・穎田・蓮台寺・大分・の各小学校、中学は一中・二瀬・鎮西・穂東・桂川・幸袋・稲中・稲東・山田中を手がけている。

\* 湯山 昭・・・(1932～) 幼稚園から大学までの校歌や、童謡や合唱曲、映画版「忍者ハットリくん」の2作目の主題歌を作るなど多方面で活躍中。



## 〈校歌考〉(11)

八木山小学校 創設 1873 年(明治 6)

作詞 久保 義久 作曲 清水 進

1 風さそう緑の山  
雲かかる学びの里  
行こう元気に  
胸もはずむきたえ力  
われらああ八木山校

2 歌を呼ぶ緑の谷  
川光る学びの里  
行こう手を取り  
道は遠い伸ばせ力  
われらああ八木山校

蓮台寺小学校 創設 1875 年(明治 8)

作詞 持田 勝穂 作曲 森脇 憲三

1 竜王の竜王の聳える峰  
仰げよ仰げよ三百の友  
丘の上に丘の上に花と匂え  
われらああ蓮台寺校

2 鎮西の鎮西の歴史の里  
学べよ学べよ風香る窓  
朝夕に朝夕に心清く  
われらああ蓮台寺校

3 雲騰る雲騰る緑の森  
勉めよ勉めよ限りなき道  
眉あげて眉あげて常に強く  
われらああ蓮台寺校

八木山小学校は、標高238.7mにある小規模複式学級。作詞と作曲者は、潤野小と同じ久保義久・清水進のコンビ。

蓮台寺小学校は、鎮西村建花寺尾辻に「簡易科潤野小学校」の分教場として開設された。歌詞に「三百の友」とあるが、ここでも炭鉱閉山の影響は殆んどなく、少子化の現在でも児童数は250前後で推移している。

作詞者(久保義久と持田勝穂)は異なるが、各曲の終わりが「われらああ〇〇校」と、同じ言葉で結んである。

※雲騰がる(くもあがる)・・・低所から高所へ急激に移行すること。(物価の高騰・株価が騰がる)(騰がる・上がる)の違い・・・ごく自然に上がるか、急激にあがるか。

\* 持田勝穂・・・(1905～1995) 福岡県出身の詩人、歌人。主に森脇憲三や安永武一郎とのコンビで校歌・市歌・社歌・合唱曲等、幅広い活動で知られ、第五福竜丸久保山愛吉哀悼歌や北九州五市合併音頭(神津善行作曲)も作詞している。同郷の北原白秋を敬愛し、唯一の師と仰いだ。

## 〈校歌考〉(12)

桂川小学校 創設 1917 年(大正 6)

作詞 岸 勝良 作曲 阿部 辰雄

1 学ぶみどりのこの校庭に 手をとり合った顔と顔  
朝日を浴びてはれやかに  
夢や希望に輝くよ  
ああ明るい桂川小学校

2 しのみ歴史のこの町を とともに歩こう君とぼく  
みんな仲よく一緒にね  
清く正しく伸ばす時  
ああ栄えある桂川小学校

3 眺めは遙かそびえ立つ 三郡の山にちかいます  
大きく強くやさしくと  
みんなの願いをかける今  
ああ伸びゆく桂川小学校

桂川東小学校 創設 1947 年(昭和 22)

作詞 西村真由美 作曲 清水 進

1 流れゆかしき桂川の 東の丘に陽は昇る  
夢と希望に空高く  
久遠の平和たたえつつ  
光る桂川桂川東小学校

2 学びの道の険しくも 共に手をとり我が郷の  
古き文化の誇りもて  
踏み越え行かんひたむきに  
伸びよ桂川桂川東小学校

3 香りも高き校章は 櫻に匂う月桂樹  
強く正しく朗らかに  
心豊かにたくましく  
鍛え桂川桂川東小学校

桂川町は福岡県の中央部に位置し、国指定特別史跡で国内有数の装飾古墳「王塚古墳」があり、(桂川)は(目尾)と共に、難読文字の地名とされている。市町村合併による飯塚市・嘉麻市が誕生した後、嘉穂郡唯一の自治体となった。

東小の校歌に、♪流れゆかしき桂川の とある。♪流れゆかしき桂川(かつらがわ)と歌うのか? いや、桂川(けいせん)であろう。だけど、桂川(かつらがわ)は流れても、桂川(けいせん)が流れる筈がない。桂川町の名の由来がかつらがわ? 桂川町にかつらがわあった? どうしても気になり、作詞者の西村真由美を検索したが不明、手がかりなし。

校章は「櫻に匂う月桂樹」。日本を代表する桜とギリシャ神話のシンボル月桂樹の組み合わせが面白い。

※ゆかしき…ゆかしの語形変化。見たい・聞きたい・知りたい。慕わしい・懐かしい。

(余談その6) 桂川小は今年で創立100周年。記念の年に新一年生の入学が100名(4学級)。おめでたい話です。

## 〈校歌考〉(13)

**大分小学校** 創設 1874 年(明治 7)  
作詞 青柳 千春 作曲 森脇 憲三

**内野小学校** 創設 1875 年(明治 8)  
作詞・作曲 不詳

1 紫こゆき三郡の ひいでし姿まのあたり  
希望は高く仰ぎつつ 世界平和のいはずえと  
日ごと勤しむ学び舎は  
ああ輝く大分小学校

1 白雲なびく大根地  
ここ筑紫路のよきところ 清き流れの穂波川  
久遠の幸をたたえつつ  
土に親しむ内野校

2 流れ清らの内住川 うぐいす塚のかたほとり  
ゆかりも深きわが里よ 学びの道をきわめんと  
努力のわざやあな楽し  
ああ伸びゆく大分小学校

2 学びの道は遙けくも  
倒れてやまん熱と意気 輝く歴史受け継ぎて  
燃ゆる力はとこしえに  
希望はおどる内野校

3 豊かな里にはぐくまれ 強く正しくほがらかに  
久遠の恵みたたえつつ 互いに励むよい子たち  
前途は広く幸多し  
ああ栄ゆく大分小学校

3 世紀新たに発足の  
平和の道をまっしぐら 強く正しくほがらかに  
進む前途は幸多し  
使命は重し内野校

同じ旧筑穂町の学校という訳か、類似の歌詞が多い。例えば、「強く正しくほがらかに」は共通し、「久遠の恵み」は「久遠の幸」。「流れ清らの内住川」は「清き流れの穂波川」となり、「学びの道をきわめんと」は「学びの道は遙けくも」、「前途は広く幸多し」は「進む前途は幸多し」。「紫濃い三郡山」に対し「白雲の大根地山」。山だけはどちらも譲っていない。  
「土に親しむ内野校」の歌詞も地域性がみられて面白い。

※紫こゆき…紫濃ゆき。(紫色が濃いのであり、紫色の小雪ではない) → 青柳千春は若菜小学校の校歌も書いている。

\* うぐいす塚( 鶯塚)…大分八幡宮の飛び地。境内はJR筑前大分駅前にある高さ10m程の丘。

\* 内住川…遠賀川の支流の一つ。本谷川、舎利蔵川等の総称。

\* 大根地(大根地山)…筑紫野市にある標高652mの山。英彦山・宝満山と並ぶ福岡県を代表する修験山の一つである。

## 〈校歌考〉(14)

**上山田小学校** 創設 1877 年(明治 10)  
作詞 松岡 俊幸 作曲 安永武一郎

1 緑はるかな山なみに ひときわ高し学び舎よ  
ただひとすじに学び合う  
よい子の瞳輝かし  
希望に燃えて磨き合う  
ああ美わしきわが母校

2 希望の丘に睦合う 交わり深しはらからよ  
つなぐ手を輪を広げれば  
小富士の山に虹が立つ  
心豊かに思い合う  
ああなつかしきわが母校

3 広く真澄の空のもと 心晴々校庭に立つ  
輝く汗で見上げれば  
光あふれて風香る  
今はつらつと励み合う  
ああさわやかな上山田

**下山田小学校** 創設 1910 年(明治 43)  
作詞 高橋 芳雄 作曲 澤井信明・秋山 喬

1 古処や馬見や英彦の山  
嶺を遥かに仰ぎつつ  
大法風はさわやかに  
我等は伸びる下山田  
自由の詩をうたうなり

2 清く明るく健やかに  
大きな夢を抱きつつ  
歓びの声は高らかに  
我等は励む下山田  
希望の詩をうたうなり

3 雲は流れて思い出と  
輝く歴史仰ぎつつ  
共に手をとり朗らかに  
我等は学ぶ下山田  
平和の詩をうたうなり

上山田小学校は熊ヶ畑村立堤小学校として設立され、炭鉱隆盛の昭和32(1957)年頃には、生徒数が二千四百人を超えたとある。(2015年の生徒数は255人)

下山田小学校は山田尋常小学校として開校。昭和22年に現在の下山田小学校に改称。

\* 大法山・・・嘉麻市と田川市の境に位置する標高233mの山。足利尊氏の奏請により、大法白馬山麓に建立された安国寺の裏山は炭鉱の斜陽化とともに荒廃していたが、地元の人々の努力で1,000本の梅が咲き乱れ、県内有数の観梅の名所となっている。

(大法風)

※ 風(おろし)・・・冬季に山や丘から吹き下ろしてくる風の呼称。(六甲風)はよく知られている。

## 〈校歌考〉(15)

**牛隈小学校** 昭和54年設立  
作詞 藤井 茂 作曲 田籠 勝義

**嘉穂小学校** 平成26年4月開校  
作詞 椎窓 猛 作曲 平田 弥枝

1. むらさきにおう 馬見山  
嘉麻のせせらぎ 水清く  
みどりの風が そよいでる  
貴船の森の 丘の上  
よい子の歌に あけていく

1. 朝日輝く 馬見 屏 古処の山脈に  
希望のこだま ひびけよと  
強き心は 嵐に耐えて  
誠の道を 求めて学ぶ  
嘉穂の子 われら 瞳は澄めり  
嘉穂の子 われら 美しく

2. 平和をめざす 日本の  
正しい姿 もとめつつ  
すなおに仲よく 朗らかに  
足なみそろえ 手をくんで  
よい子の胸は 高い空

2. みなもと深く うまれし水は 嘉麻の川よ  
大地をうるおし拓く  
遠き旅路は響きの灘へ  
たゆまぬ愛の水かさを  
嘉穂の子 われら 生命に汲みて  
嘉穂の子 われら たくましく

3. 希望に燃えて 共どもに  
ここに楽しく 学びつつ  
教えとめぐみ 身にしめて  
正しく強く 伸びていく  
牛隈校に 栄えあれ

3. 絆の森に さわやかな空  
益富の古城が語る伝統に  
未来を描く学びの苑は  
佳き師と共に想いは高く  
嘉穂の子 われら 明日の世界に  
嘉穂の子 われら 美しく

牛隈小学校の作詞者藤井茂は初代教頭、嘉穂小学校は、平成26年3月末に廃校となった、大隈・宮野・足白・千住・泉河内の五つの小学校を統合してできた新設校。作詞の椎窓猛は八女郡矢部村出身の詩人。作曲者の平田弥枝は当時嘉穂小六年生の担任で、現在は熊ヶ畑小教務主任。

\* 貴船の森・「嘉麻の神社一覧」にはく牛隈字堂ノ前ノの地に貴船神社とあり、当時から牛隈小の一角が鎮守の森だったことを窺がわせる。

\* 益富の古城(益富城)・永享年代(室町期)大内盛見が築城したとされ、関ヶ原以後、黒田長政が国境警備のために設けた六つの出城の一つ。歴代城主には後藤又兵衛や母里太兵衛が名を連ね、豊臣秀吉の九州征伐の際の一夜城としても有名。元和元年(1615年)の一国一城令で廃城。

## 〈校歌考〉(16)

熊ヶ畑小学校 創設 1877 年(明治 10)

作詞 大塚 進 作曲 池田 勝重

1 めぐる緑の山そめて  
希望の光さすところ  
自治の足音高らかに  
強く明るく進みゆく  
ああわれらが母校熊ヶ畑

2 清い流れにふるさとの  
文化の泉の湧くところ  
はえある歴史受け継いで  
日々の勉めに励みゆく  
ああわれかが母校熊ヶ畑

3 硬山のこだまの明け暮れに  
平和の風が呼ぶところ  
協同の旗仰ぎつつ  
誠の道をきわめゆく  
ああわれらが母校熊ヶ畑

若菜小学校 創設 1912 年(大正元)

作詞 青柳 千春 作曲 早粕 與

1 筑紫にしるき竜王の  
峰を軒端に仰ぎつつ  
春光解くる丘の上に  
名も萌え出ずる若菜校

2 清き心に智を磨き  
強きカに体を練り  
朝な夕なに勤しみて  
進む吾等が若菜校

3 なまじ遙けき穂波の野  
雲居に煙る炭山の  
郷土の誇りに踊りつつ  
励む吾等が若菜校

熊ヶ畑小は「上山田村・熊ヶ畑連合公立堤小学校」として設立され、最盛期には生徒数が 345 人を超えたとある。(2015 年は 13 人)

若菜小は我が母校。小高い場所にあった校舎からは幾つかのボタ山が見え、西空には竜王の雄姿が眺望できた。最盛期は生徒数が二千人を超すマンモス校だったが、石炭産業の衰退とともに六年生時には、クラスメートの 1/3 が卒業と同時に他県へと転出し、再び中学で顔を合わすことはなかった。今も音信不通、彼らの消息は分からないままだ。

※硬山(ボタ山)・・・石炭の採掘時に発生する捨石(ボタ)の集積場。多くはピラミッド型で、旧住友忠隈炭鉱のボタ山は、その形の良さから「筑豊富士」と呼ばれた。

※軒端(のきば)・・・のきの端。軒(のき)は、屋根の下端で、建物の壁面より外に突出している部分。